

＜県研究主題＞

家族の一員として生活をよりよくしようと主体的に工夫する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 長谷川 通子（県央地区）

＜研究主題＞

家庭生活をよりよくしようとする心豊かな子どもの育成をめざして
～「くふうしよう楽しい食事」の授業を通して～

1 提案内容

家庭科の学習を通して、子どもたちが課題をもち、自ら取り組んでみたいと思うような問題解決的な学習を展開する中で、基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせ、さらに家庭と連携し、常に家庭を振り返ることをしながら、家庭生活をよりよくしようとする心豊かな子どもを育成するための取組について

2 研究の柱と成果

調理に関する、基礎的・基本的な知識や技能の習得ができるよう、繰り返し学習や、問題解決的学習を通して力をつけさせたい。さらに、食事の大切さを考えたバランスの良い1食分の献立を立てることができるようになることを目指して学習を進めていく。

(1) 問題解決的学習の工夫

① 学校給食の献立を考える ② 実践的な体験活動を行う ③ 家族のために献立を考えるという3段階の問題解決的な学習を取り入れる。

〈成果〉授業のねらいが明確だったため意欲的に活動し、班員と工夫しながら取り組むことができた。

(2) 知識や技能の習得と繰り返し学習

- ・体験が積み重ねられる繰り返し学習を取り入れる。
- ・献立作りを通してバランスの良い食事を考える。
- ・実習後は、課題をもって家庭でも繰り返し体験ができるようにする。

〈成果〉同じ活動を何度か繰り返すことで、料理を作ることに慣れ、児童の自信にもつながり、技術も上達した。栄養教諭の話も聞くことができたため、給食の献立で考えたことを生かしながら、家族構成や家族の好みなど、自分の家庭に合ったバランスの良い献立について工夫して作ることもできた。

(3) 言語活動の充実

- ・「聞く・話す」を中心とした話し合い活動を授業の中に取り入れる。
- ・ワークシートや家庭科ノートに、実習計画や考え、授業の記録などを書かせる。
- ・発表会や報告会を開き、自分の思いを伝える経験をさせる。

〈成果〉意見を言うことを苦手とする児童も、班員の意見を聞きながら自分の考えを持つことができ、学び合いにつながった。また、自分の思いや友達の考えに触れ、献立についての理解が深め、生活で活用しようとする意欲を高めることができた。

(4) 家庭との連携

- ・家庭科で学習したことの習得のための繰り返し学習を家庭で実践する。

・家庭科通信を発行し授業の様子を伝える。

〈成果〉家庭の協力を得て、家の人から認めてもらい自信をつけたり、料理のこつを教えてもらったりすることが増え、子どもの心も大きく成長したと感じた。

3 協議内容

協議の柱「思考力、判断力、表現力等を育む学習プロセス作りの工夫」について

(1) 2年間を見通した学習計画と指導の工夫について

2年間を通して家庭科を教えられる環境は難しいが、5年生で五大栄養素を学習していることを土台に、技能などを補い6年生で学習を重ねることが大事。技能については、家庭に協力を得ることが大切である。家庭科は、家族の一員としての実践的な態度を育てるのだから、家庭と学習をつなげることを教える側が常に意識して行う必要がある。

(2) 思考力、判断力、表現力等を育む問題解決的な学習の評価の工夫について

板書の工夫や、料理カードの利用、ICTの活用は、話し合いや、考えを深める手助けとなる。経過を評価することは難しいが、ワークシートの活用は効果的である。失敗できる環境（そこから問いが生まれる）、解決する場（学び合いが生まれる）をつくることで問題解決的な学習となり、そのプロセスを評価することができる。

4 まとめ

(1) 問題解決的学習

食材を通して、「根菜のゆで方が分かった」「葉菜との違いが分かった」となるように学びを導いていくと良い。また、給食の献立と家庭の献立の特徴をおさえ、いつ・どこで・誰にを想定することで、自分の家族を見つめ、自分の工夫ができるようになる。

(2) 家庭との連携

家庭科から家庭が見える。学習を積み重ねることで、家庭で子どもの成長が見える。だからこそ、5年生の初めから、家庭への発信は大切である。学習内容、実践、メッセージなどを通信で伝えることにより、家庭が子どもの成長を実感し、学びを生活に生かせるよう意図的に連携していく。

(3) 指導と評価

一人ひとりの見取りは難しい。グループ活動での見取りはなおのことである。だからこそ、2年間を見通して計画的に見取る必要である。さらに、ワークシートの工夫、活用も大切である。個の活動を評価するには、デジタルカメラを活用すると良い。作品を名前の札と共に撮ったり、グループ活動の個々の手元を撮ったりして、活用し評価につなげる。評価の視点やポイントを絞り、繰り返し比較することで、妥当性のある評価となる。

(4) 言語活動の充実

限られた調理器具や食材をどう生かすか考え、話し合いを深めることで、自分とは違った意見を知り、多方面から検討する過程を経験できる。題材配列や系統性を考えた指導により、2年間を通して大きな成長につながる。

(5) 食育

1年生からの食育が5、6年の家庭科でどのように生かされているのか。各学校での食育の系統性をもう一度確認できると良い。

<研究主題>

「見通す」、「振り返る」学習活動を大切にした指導と評価の充実

1 提案内容

「見通す」、「振り返る」学習活動を題材に効果的に取り入れ、指導と評価の一体化を図ることが、学習に主体的に取り組もうとする意欲を高め、思考力・判断力・表現力等の育成につながると考えた。

2 研究の視点

(1) 実践例1「家庭科の学習をはじめよう/6年生の学習をはじめよう」

自分の成長と家族とのかかわりを見つめ直したり、家庭科を学習する意味を考えたりしながら、より広い「見通し」を持ち、学期や学年の区切りなどの適切な時期に、できるようになったことや自分の変容を「振り返る」ことが大切。

(2) 実践例2「使って便利！自分の生活に役立つ物を作ろう」

家庭科における問題解決的な学習の「見通し」とは、子どもが自分の生活を見つめ直すことによって自ら到達すべき目標を見据えて課題を設定し、具体的な解決の手立てをイメージすること。「振り返り」とは、習得した知識及び技術を活用した問題解決的な学習を振り返ることによって、新たな課題をもったり、生活をさらに豊かにする取組について考えたりすること。

3 研究の視点に迫るために

(1) ① 内容A(1)ア「自分の成長と家族」を重視した年間計画の作成

2年間を通して、自分の成長と家族について考えられるように意図的・計画的な題材構成を工夫する。

② 自分の成長を確かめられる指導と評価の工夫

自分が身につけた力を数値やレーダーチャートに表し、変容する自分を可視化するとにより、自分の成長を確かめられるようにする。

③ 自分の成長を実感できる家庭との連携

家庭科だよりの発行、懇談会等で家庭科の学習内容について話題にする、保護者インタビューを呼びかけるなど、人的環境としての活用も図り、家族の思いや声を授業の中で子どもに直接呼びかけることも効果的である。

(2) ① 2学年間を見通した年間指導計画の作成と製作する題材の系統的な指導

それぞれの題材における身につける力を明らかにするとともに、学校や子どもの実態に応じて、意図的・計画的な指導ができるよう、年間指導計画を柔軟にとらえ、見直す視点を持つ。

② 「見通す」学習活動を意識した問題解決的な学習の充実

問題解決的な学習のプロセスと教員の手立ての流れ(Check/Plan/Do/Check/Action)を構想図で表現。

③ 「振り返る」学習活動を意識した評価のあり方を工夫

自分の課題や解決の見通しなど一連の思考経過が捉えやすいような形式を工夫する。
また、教員は、子どもが製作の目的をとらえているか自分の課題に対してどのように考え、工夫していたかなどの過程をとらえることが大切である。

4 指導の評価と実際

2 学年を見通す学習計画、2 年間の製作の系統性が分かる掲示など、「見通す」→「学習」→「振り返る」プロセスを大切にする。

5 工夫・改善

- (1) 「見通す」「振り返る」学習活動を意図的・計画的に取り入れたことで、自分の成長を実感することにつながり、家庭でも積極的に実践しようとする姿がみられた。
- (2) 不織布による試作により、製作物への具体的なイメージをもち、自分が使いやすいよう工夫することにつながった。更に、年間指導計画を柔軟にとらえ、子どもの実態や身につける力に応じて、よりよい改善を図る必要がある。

6 協議内容

協議の柱「思考力・判断力・表現力等を育む学習プロセス作りの工夫」について

- ・横浜市の間計画の系統性がわかりやすい。
- ・年間計画は2年間を見通した計画を立てることが大切。
- ・学習カードを使った評価のあり方。
- ・目的意識を持ちながら、学習に取り組みさせる。
- ・年間指導計画を作成する際には、行事や他教科との関わりを考えて作成することが大切。
- ・問題解決学習では、失敗することの大切さも感じた。
- ・家庭科は担当が変わることもあるので、引き継ぎの重要性を感じた。

7 まとめ

小学校学習指導要領実施状況調査（家庭）より

- ・工夫に関する家族や地域との関わりはおおむねできているが、自分の生活時間を見直し、家族の一員として協力することへの関心は低い。
指導上の改善点：家族の一員としての協力することへの関心と生活時間の使い方の工夫。
- ・材料や目的の応じた野菜炒め方の工夫はおおむねできているが、栄養バランスを考えた一食分の献立の工夫に課題がある。
指導上の改善点：栄養・調理に関する基礎的・基本的な知識。理解と一食分の献立の工夫。
- ・次の教育課程に向けた改訂のキーワード：グローバル化社会、社会の多様性、技術革新、人間生活の質的变化。
- ・今の小学生が大人になるときは、今は存在しない職業に就く児童が65%になる。その見通しを持った教育の改革が必要。